

勉強方法の確立から始める試験対策



取得した資格：一級建築士
資格取得年度：令和3年度

まえかわ ようたろう
前川 耀太郎*

1. 受験の動機・経緯

就職した当初、実務において学生時代と考え方も求められる知識も異なることを痛感したことが、受験の動機でした。学生時代からいつかは一級建築士を取得しようと漠然と考えていましたが、職場の諸先輩方や学生時代の同期が合格していくのを見て少しずつ焦りを感じるようになりました。いずれ取得するつもりがあるのなら、経験も知識も未熟な若手のうちに勉強をする方が自身のためになると考え、遊びたい気持ちに鞭を打ち本腰を入れて資格取得に向け勉強を始めました。

最初は何から始めれば良いのかもわからず、インターネットで合格体験記を読みながら勉強の仕方、試験の特徴を調べる毎日を過ごしていました。様々な体験記を読むうちに、合格者で勉強の時間も仕方も三者三様であることに気が付きました。当たり前のことですが、受験者にはそれぞれの生活や仕事があります。そのため、特定の合格者の試験対策を信じてそのまま真似をするのではなく、様々な対策を参考にしつつ自分に合う勉強方法を考えることにしました。振り返ると、自分なりの勉強方法を考えられたことが、良かったと感じています。

ここでは私なりの勉強方法を考えた中で、重要と感じたことを書かせていただきます。これから資格取得を目指す方の一助となれば幸いです。

2. 試験対策

学科試験対策は独学で勉強し、製図試験対策を予備校に通い勉強することにしました。

学科試験対策を独学にした理由は、過去20年分の問題を理解すると学科試験に合格できたという体験記をいくつか読んで、地道に勉強することが好きな私には予備校のペースで勉強するより性に合うと感じたためです。製図試験対策を予備校にした理由は、実際の建物のおさまりを自分で調べて正しく理解するのは難しいと感じ、質問できる講師が欲しかったためです。

1) 学科試験

学科試験対策で重要と感じたことは、分野毎の勉強時間の使い分けでした。

法規分野の問題や構造計算問題は、法令集や参考書を見て理論立てて勉強しなければ理解しにくいのに対し、計画や環境分野の数値を暗記する問題は音声学習でも理解（暗記）することができます。

1年で125問出題される学科試験の過去20年分の問題、計2,500問を理解すると決めて、帰宅後の勉強時間だけでは足りないので、自宅で勉強できるまとまった時間には理論把握が重要な問題を、通勤や家事等の隙間時間は音声学習で簡単な暗記問題を解くようにしました。また、勉強時間を捻出する工夫として、20年分の過去問を理解するという目標を掲げ、ゲームのように進捗を数値化し、過去問を多く解いて、飽きることなく勉強を続けることがで

*国土交通省 中部地方整備局 営繕部 整備課

きました。

しかし、過去問を解くだけの対策では不安になることもあったので、予備校の模試を積極的に受けました。学科試験には各科目毎に足切りラインがありますが、試験通過の合格ラインは全受験者の上位何%という割合である程度決まります。模試は自分が受験者のどの位置にいるのかを順位として表してくれるので、自分の弱点を洗い出すだけでなく、日々の地道な勉強の目標設定にも役立ちました。

受験する年の1月から勉強を始め、学科試験当日までに過去問を全て完璧にすることはできませんでしたが、幸い受験初年度で合格することが出来ました。自分が納得できる勉強方法を考え、不安感を取り除きながら勉強を続けられたおかげだと思います。

2) 製図試験

製図試験で重要と感じたことは、疑問に思ったことは全て納得するまで質問することでした。

ある程度、暗記で通用する学科試験と異なり、製図試験では、試験時間6時間30分で課題文の条件整理とエスキス、作図、最終確認を行うことが求められます。一発で不合格判定となる重大な法令違反は言うまでもなく、細かな減点にも気を付けて試験に挑まなければなりません。減点を避けるためには関係法令の遵守のほか、プランニング、電気設備・機械設備分野への配慮が必要です。それらの理解が曖昧なままではエスキスに時間を要し、試験時間内に合格できるプランの作図を完了することが難しくなります。

エスキスの時間を短縮するため、少しでも疑問に思ったことは予備校の講師、職場の諸先輩方に質問し、建物の理解を深めながら自分の中に減点の少ないプランのテンプレートを増やしていきました。

また、受験年度のテーマによって重要視されない法令等が少なからずあります。そのような項目を予備校の講師に度々質問し、試験対策と割り切って深く考えない範囲をリスト化してテンプレートと併せて増やしていきました。

一つ一つの疑問点に対して自分なりの答えを持って製図試験に挑み、自分のテンプレートを活用する範囲、試験対策と割り切り深く考えない範囲を明確にして試験時間内で迷う時間を最小限にとどめたことで、作図後の最終確認までできたと思います。

3. 資格を取得して

一級建築士を取得してもスペシャリストである受注業者の方々と対等に話ができるわけではありませんでした。経験不足の自分は、試験勉強を終えても勉強の毎日です。しかし、以前は気付くことができなかつた問題点に気付く機会が増えたり、不明点に対して何を調べるべきなのかがわかるようになり、試験勉強を通じて建築の勉強の仕方が身に付いたと実感しています。

目の前の仕事に追われるのではなく、以前より俯瞰的な視点から建築を考えられるようになったことが、資格を取得して何よりよかったと思えた瞬間でした。

4. おわりに

資格を取得するためには、相当の努力とそれに耐えるモチベーションの維持が必要です。受験の動機、勉強方法はそれぞれ異なりますが、職場の方々やご家族の協力などモチベーションの維持の仕方も含め、自分なりの試験対策を考えることをお勧めします。

最後になりましたが、試験対策に多大なご協力をいただきました職場の方々、家族へ誌面をお借りして御礼申し上げます。

【著者紹介】 前川 耀太郎 (まえかわ ようたろう)

令和2年度に国土交通省中部地方整備局へ入省。令和3年度まで営繕部整備課建築設計審査係にて営繕事業の設計業務に、令和4年度より同課積算係にて積算業務に従事。